

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活での継続を謳った理念を掲げている。		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関など目に付く場所に上げ、意識付けを行っている。	○	理念の実践に向け、職員全員で力を合わせて取り組んで行きたい。
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットに乗せている。法人の広報誌や、グループホームの広報誌を家族、来園者に毎月配布している。運営推進会議やボランティアさんが来て下さった時には、伝えるようにしている。	○	周りの方々にグループホームというものを理解してもらえるに取り組んでいく。
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時や、裏で作業をされていると挨拶を交わすようにしている。	○	近隣の福祉施設の子供たちや、地域の高齢者が散歩途中に、気軽に立ち寄れるように、今後取り組んでいきたい
5	3	<input type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	インフルエンザの流行もあり、学区民の集いに参加出来なかった。ほとんど行えていない。	○	新グループホームになり、地域との交流は行えていない。地域に出られる方法を運営推進会議などでも議題に出し、検討している。
6		<input type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じ、地域の高齢者の方が気軽に立ち寄って頂けるように声を掛けている。	○	まず、地域にグループホームの理解をして頂けるような取り組みを検討する。
地域とのつきあい 3項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の説明をし、全職員に行ってもらっている。昨年の評価を活かし、水分量や排便記録として残せる用紙を作成した。		会議等で評価に対する分析・改善への検討を行いサービスの質の向上を行いたい。
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの行事、活動、入居者の状況を報告したり、地域や市、家族からの意見をもとに、サービス向上に努めている		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に相談や報告を行っている。		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	園内研修で取り上げたり、外部研修へも参加している。家族などには、その都度、問い合わせに対し説明を行っている。		
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の委員会のメンバーに入り、研修等を通して全職員の虐意識の向上に努めている。虐待リスク・アセスメント票の作成に取り組んでいる。入浴時などあざや傷の確認と報告を行っている。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って時間を掛けて説明し同意を得ている。家族、ご本人には、「その都度、何でも聞いてください」と声をかけている。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が1回/月来園。入居者の話を聞いて下さっている。また、家族と面会時に話をし、利用者が困っていることなどを話されていないかなども尋ねている。		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪時には様子や健康状態について報告している。必要時には随時報告している。広報誌に、職員の異動なども報告をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ユニットごとに案内を出し、家族に参加してもらっている。その中で意見ももらっている。		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月ワーカー会議を行い、意見を出し合っている。定期的に、面談を行っている。	○	定期的に職員の意見を聞く時間を作る。改善アンケートの実施。
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活スタイルに合わせた援助が出来るよう、勤務パターンを数種類作っている。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動の次期を配慮したり、離職者のあとには出来る限り早めに埋められるよう努力している。	○	職員が抜けることに対する利用者の負担やストレスを軽減できるようなケアを行う。
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で勤続年数に合わせた階層別職員研修を毎年行っている。また、毎月の園内研修も参加しやすいよう2回ずつ行っている。ワーカー会議で認知症やケアについての勉強会も取り入れている。		
20	11	<input type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修会に地域の高齢者福祉施設の方の参加を呼び掛けたりしている。	○	地域のグループホームとの交流の機会を作って行きたい
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要に応じて職員一人一人と話す機会をもったり、職員同士で相談し合える環境づくりに努めている。法人の中にセクハラ等相談窓口も設けている。	○	セクハラ等相談窓口があることを知らせていく。他部署との交流の機会も増やし、他職種にも相談しやすい環境を作っていく。
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の意向が反映できるよう「希望調書」の提出や管理職との面談を行っている。パート職員から正規職員としての採用も行っている。改善アンケート法人が実施した。		
人材の育成と支援 4項目中 4項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で本人、家族、ケアマネから十分な情報を得ている。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や悩みをきき、グループホームに何を求められているのかも聞いている。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスの紹介をもし、選択肢の一つであるという意識を持ってもらい、状況に応じて適切な対応を見出せるよう家族やケアマネとも話し合う。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の希望があれば、まずご本人や家族に見学してもらおう。家族や本人が、出来る限り満足して利用したいと思って頂ければ、入居していただいている。空室があれば、ショートを利用して頂き、グループホームの生活を体験して頂いている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活するという意識を大前提にしている。行事などは利用者と一緒に楽しんでいる。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力も得ながら本人の生活を援助させて頂いている。いいことだけでなく、グループホームでの生活についても、きちんと正確に伝えさせていただいている。		お互いが、包み隠さず相談できる関係作りをしていく
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加案内を出し、呼びかけている。また、必要に応じて本人の希望を家族へ伝えるなど、職員がパイプ役となっている。利用者出来る事で家族へプレゼント出来るような作品を作っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく、昔なじみの友人も尋ねてきやすい環境作りを行っている。居室であれば、仏壇なども設置し、個人の宗教も途絶えることなく出来る。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活場面の中で常に職員が調整役になっている。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同法人内の特養へ入所された利用者が、グループホームに遊びに来られたり、こちらから訪ねたりしている。また、一緒に参加する行事があり交流している。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない普段の会話や表情の変化を見流さないようにしている。少しの変化が出た時に、すぐ個別に話をしたりし、不安な思いや原因を聞けるようにしている。	○	センター方式・自分史作りなどを実践して、その方の暮らし方の意向や希望に添えるようにしていきたい。
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人から、今までの生活をお聞きしている。入居後、可能な方には、自分史作りを行っている		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの利用者に、担当職員を作り、何でも話せる関係作りを行っている。ユニットリーダーは、担当者の補助に回り、さらにその方の出来ることに注目し、担当者にアドバイスしている	○	アセスメントやモニタリングを行い、利用者一人ひとりの生活を見直していく
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットリーダーが、担当者とともにアセスメントを行い、計画作成担当者が作成している。ユニット会議等で話し合いを行っている。	○	各担当でアセスメント・モニタリングをしていける体制作りを行いたい。
37	16	<input type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ、ケアプランの見直しを行っている。家族の意向があれば、プラン変更までは出来ていないが、プランに追加したりしている。	○	以降があれば、プラン変更など見直しも行っていく
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は具体的に細かく記載されており、計画の作成に役立っている。出勤時ケース記録に目を通してから勤務に入っている。ただ、現状の記録の方法では、その記録から介護計画になかなか活かされていない。	○	担当職員が中心となって今必要情報を発信し、職員が共有し記録を残すことで、介護計画に反映できるようにしたい。
介護計画の作成と見直し 3項目中 2項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人全体での行事やレクリエーションに参加する事で、重度化したときに特養に移行していく際のイメージが持てるようにしている。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員に運営推進会議に参加してもらっている。また、消防署や学区の消防団には福祉ゾーンとしての把握をしてもらっている。地域の交番には、利用者の情報を知らせており、緊急時すぐに動いてもらえるように協力をお願いしている		
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族が受診に行けない場合はヘルパー(自費)と一緒に受診されるので、その支援と身体状況を申し送っている。		
42		<input type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当することがない		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院や医院をかかりつけ医にして頂いている。基本家族受診だが、往診時には、対応している。主治医には、受診時、生活状況を記載した連絡メモを出し、連携をしている。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居時に、出来る限り認知症専門医の受診をお願いしている。必要時には、認知症専門医に受診し、指示やアドバイスをもらっている。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護職員に利用者の状況は伝え、必要に応じて緊急対応してもらえる体制を整えている。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	事業所内での対応可能な状態であれば、なるべく早く退院できるよう、家族や医療機関と連絡をこまめに行い、カンファレンスなど持っている。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていない。必要に応じて、次の機関となる施設等への申し込み、その説明、見学など行い、不安を取り除くようにしている。	○	退居の基準を明確化していく

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 り組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化したときにスムーズに移行できるよう、必要に応じて法人内の他事業とも情報の共有を行っている。必要時は、緊急でカンファレンスを開催し、今後の対応などを話し合っている。		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時は、次の施設担当職員や家族に、介護計画やフェイスシートなど可能な限り情報提供を行なっている。		
地域資源との協働 10項目中 9項目					


自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1.(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個々を尊重する言葉掛ができるように日常的に気配りしている。法人全体として全職員に個人情報保護に関する誓約書を交わしている。プライバシー保護取扱いについて、法人でも研修会を実施している。		ここに合わせた言葉かけや対応を行うために、個人を知ることだけでなく、認知症についての勉強会も行っていきたい
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の自己決定を尊重している。自己決定できるような話しかけを心掛けている		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、タイムテーブルをつくらず、その日その時の個々の状況に合わせている。		その人らしい生活とは何かについて、考えて行きたい
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3 項目					
IV-1.(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は基本、家族に今まで着ておられた服を持って来て頂いている。こちらでの購入を希望された時は、本人と職員が買い物に行っている。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ得意な部分を請け負いながら、毎食なんらかの食事作りを行っている。盛り付けや後片付けも食事と考えている。週に2回は、全メニューを自分たちで考え買い物に出かけ、手作りしている。	○	今後、手作りの食事をもう少し増やす。食事作りを生活の1部となるようにしていく。
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこなども、主治医や家族の了承があれば可能。飲み物は、好みに合わせて飲んでもらえるように用意している。		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた排せつ介助を行えるように支援している。声掛けや排せつ用品使用なども、その方に合わせて行っている。		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日15時半よりお一人づつ入浴して頂いている。本人の希望で入浴されないこともあるが、その時は入浴されない理由をしっかりと受け止め、次の日につなげている。		入浴時間を利用者の希望も聞きながら、検討していきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えて気持ち良く安眠できるように支援している。鍵を居室に中で掛けられるので、利用者の安心になっている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ここに合わせた生きがい作りを行えるように、入居時にこれまでの生活歴や趣味、職業を聞き、それを活かせる支援をしている。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時には、職員と共にお金を出し支払いをして頂いている。管理可能な方については、少額なら家族了承のもと自己管理されている		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人の各レクリエーションへの参加、季節ごとの外出などを行っている。日常的に買い物や散歩などに出かけるようにしている。「行きたくない」の選択にも対応している)		これからも利用者の意見を積極的に取り入れた外出をして行きたい。
62		<input type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を感じ行事(ぶどう狩りやイチゴ狩りなど)を実施。興味のある方を募り、図書館や美術館への外出を行っている		グループホームで出掛けられる外出の範囲を決めて行く。
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ、手紙やはがきを出してもらえるようにしている。また、家族からも利用者へ手紙を出してもらえるように、面会時などにも依頼している。		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間以外でも、いつでも気軽に来ていただける雰囲気作りにも努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、職員全体で意識共有に努めている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は、どこも施錠していない。鍵を掛けないケアについて、ケアワーカー会議で話している。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認をしている。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬などは施錠し保管している。包丁などは、必ず使用后すぐに片付けるが、片付け場所は、隠すのではなく、自然だが危険のないように工夫をしている		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人全体の委員会に参加し、ヒヤリハット、事故報告書の記入を意識的に行っている。ワーカー会議でも取り上げたりして、事故防止への対応、対策を話し合っている。	○	事故があった時や、ヒヤリハットが出た時には、その日に話し合いを行い、早期に対策を講じられる体制作りを行う。
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の緊急時対応の研修への参加、独自に吸引器の使用法などの勉強会を行っている。緊急時の連絡網、マニュアルも設置している。		
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。法人のた事業所とも協力できる体制を整えている。	○	緊急時の避難や協力体制の、マニュアル作りを見直し、早急に研修を行う。
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常的な状態の報告を行っている。入居時に、予測できるリスクの説明も行っている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8 項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	排泄記録や水分摂取など記録をしている。なるべく前に必ず体調を確認している。必要時には、すぐに主治医に連絡をとれるようにしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルに、個人の薬についての説明をファイルしている。変更等は必ず申し送りし、生活や体調に変化がないか把握に努めている。薬は基本管理しており、飲み忘れや間違いがないように手渡しし、服薬確認を行っている。		
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認を行い、必要時には牛乳など乳製品を飲んでもらったり、水分量を増やすなど工夫している。それでも改善しない時のために、それぞれの主治医に対応の指示をもらっている。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎朝・晩口腔ケアを行っている。 入歯洗浄剤も使用し、口腔ケアに努めている。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取について記録に残している。食事は、いつ持ち変化があった時はケース記録に残し、様子観察をおこなっている。月1回の体重測定を行い、変化が大きい方は話し合いを行い、食事の調整や日常生活の見直しを行っている。また、必要に応じ、月2回の体重測定を実施している。受診時には、主治医にも報告を行っている。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体の委員会に参加し、感染対策を行っている。又、研修など全職員の意識の向上に努めている。		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の整理を1回/週行い、毎日朝夕2回冷蔵庫の温度チェックを行っている。ふきん、まな板などは毎日漂白し、殺菌に努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7 項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	格子の玄関は、古民家風で施設らしくなく、明るく入りやすい雰囲気になっている。開放的な作りで、居心地良く訪問して頂けるようになっている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・リビングは天井が高く、自然光が取り入れられる作りとなっている。トイレや浴室は個室。対面式のキッチン、外を見ながら料理ができる。また、流しを2か所作り、1か所は座っても出来る高さになっている。		リビングやダイニングに季節感をもたせていきたい。
82		<input type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっているが、共有の空間にも畳の和室や広いリビングにソファを設けるなど、その時に合わせて、過ごし方を変えられるようにしている。	○	共有のスペースを、今後上手く区切って使っていきたい
83	30	<input type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は、全て自宅から持ち込みとしている。テレビや仏壇なども持ち込み可能。自宅の部屋をそのままグループホームに持って来てもらえるようにしている。		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開けたり、天井にファンが付いているため常に回し、空気がよどまないようにしている。空気清浄器を各フロアに2台ずつ設置している。居室にも、強弱付けられる、換気扇を設置している。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 3項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には手すりを設置している。廊下は腰板切り目部分と突起を多く出し、手すり代わりとして伝い歩きできるようにした。		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を防ぐために、出来ること出来ないことの把握に努めている。	○	出来ること出来ないこと(分かること、分からないこと)を職員が把握し、出来ることは、混乱なく出来るように支援していきたい
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにはベンチを設置し、日向ぼっこしたり出来る。裏には畑もあり、野菜や花を入居者と職員と一緒に作っている。		気軽にベランダや外回りに出られる環境作りを行いたい。
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○ ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

新しいグループホームになり、以前の地域と違い、なかなか交流の機会が持てていない。地域の方が、散歩の帰りに立ち寄って頂ける施設でありたいと思う。民家型のグループホームの歴史と、新しいグループホームの両方をうまく兼ね合わせたケアができるようにしていきたい。

評価結果整理表

個 別 表	□のチェック項目数
I 理念に基づく運営	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	1 項目/3項目
－3. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5. <input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	3 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2 項目/3項目
－3. <input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	9 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	
IV－1. その人らしい暮らしの支援	
－1. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	5 項目/6項目
－1. (4) <input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	
－2. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	3 項目/5項目
－2. (2) <input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (5項目/5項目)について

新グループホーム開設時、独自の基本理念を作成し、法人基本理念、方針と共に全職員が充分理解し、日常的に立ち返れるよう意識付けに努めている。
運営推進会議では地域からの様々な情報も頂き、今後の地域への行事参加に向けて努力している。
職員の経験不足など、ワーカー会議などで業務の確認や勉強会を行ったり、法人の研修への参加も促し、意識向上に努めている。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (2項目/2項目)について

事前面接で本人、家族、ケアマネから十分な情報を得て、少しでも多くの情報を持って日々の援助が出来るよう努めている。また、入所前には、ご本人にまず見学して頂き、安心して入所していただけるようにしている。利用者の思いを大切に、日頃から積極的にコミュニケーションをはかり、信頼関係を構築している。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (4項目/4項目)について

個々にあったサービスが提供できるよう介護計画を作成しているが、十分なアセスメントやモニタリングが出来ていない。今後しっかり形を作り行って行きたい。
利用者の日々の言葉や表情、行動から、思いを汲み取るよう努力している。
それぞれの主治医に健康状態など伝え、指示、アドバイスを受け、健康に過ごしていただけるよう心がけている。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (7項目/7項目)について

基本的な日課はあるが、タイムテーブルをつくらず、その日その時の個々の状態や思いに配慮しながら毎日のスケジュールを決めている。出来る限りメリハリのある生活を送ってもらえるように、外出の機会や行事の企画を行っている。
料理、盛り付け、あとかたづけ、掃除、洗濯など毎日の生活の中で必要な家事を日課に取り入れている。また、ぞうきん縫いや、茶葉の袋詰めなど、法人内で必要なものを作業に取り入れ、出来上がったものは一緒に届けることにしており、作業が役立っていることを実感してもらい意欲に繋がっている。
今後も、利用者の意見、思いを大切に日々の活動を考えていきたい。

V サービスの成果に関する項目について

利用者との馴染みの関係が出来ており、笑顔あふれる生活作りができています。新グループホーム開設のために、新規採用職員や他部署からの異動職員など、経験不足の職員が多く、レベルアップを図る所まで入っていない。研修の参加や勉強会の実施など行い、質の向上に努めていきたい。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評価年月日: 21年 4月 15日

前回評価年月日: 20年 8月 16日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月 ~ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期評価実 施時期
評価項 目番号	優先 順位	内 容				
I-2	1	地域との支えあい	H21年4月 ~H21年10月	運営推進会議に、グループホームが地域に出られないことがないか検討してもらえるようにする。	地域との関係については、もう少し、時間がかかる。	H21年11月
				散歩などは、出来るだけ地域の中を通り、挨拶を交わすなどし、地域にグループホームを知ってもらい理解してもらえるようにする。	笠原の神社に出かけるなどしている。	
IV-1 (4)	2	事故防止のための取り組み	H21年4月 ~H21年10月	入居者一人ひとりについて良く知り、リスクを上げて行く	まだまだ認識が甘い。まず担当が、入居者様を良く知ることから始めている。	平成21年11月
				職員会議で勉強会を実施し、職員の事故に対する意識を高める	話しあいを実施。今後もっと行っていく	
I-5	3	人材の育成と支援	H21年4月 ~H21年10月	職員会議での10分間勉強会の実施	認知症の勉強会を10分行っている。今は行っているだけなので、勉強会の持ち方も検討していく	平成21年11月
				研修会への参加	外部研修については、認知症の研修を中心に参加している。園内の研修への参加をもっと呼びかける。	

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

計画作成日： 21年 11月 10日

評価予定日： 22年 4月 10日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月 ~ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期評価実 施時期
評価項 目番号	優先 順位	内 容				
I-2	1	その方に合わせた生活支援	H21年11月 ~H22年3月	モニタリング・アセスメントの形式を作り、アセスメント、モニタリングを担当で実施していく		H22年4月
				ケース記録の記入について、見直しを行う		
IV-1 (4)	2	事故防止のための取り組み	H21年11月 ~H22年4月	入居者一人ひとりについて良く知り、リスクを上げて行く		H22年4月
				職員会議で勉強会を実施し、職員の事故に対する意識を高める		
I-5	3	人材の育成と支援	H21年11月 ~H22年4月	職員会議での10分間勉強会の実施		H22年4月
				研修会への参加		